[The link bar feature is not available in this web]

良くある質問集（FAQ）

上級運用編・Advanced Operating

他局に接続しようとすると"conferencing"（会議コンファレンス接続）であるエラーメッセージがでます。これは何？

マルチ・会議コンファレンス接続は一つの会議（ラウンドテーブルQSOスタイル）から別の会議コンファレンス接続への接続です。EchoLinkには、現状においては会議（ラウンドテーブルQSO)参加者間で1ヶ所の接続がなされてしまっている状態の会議接続のループを検出し防ぐ確かな手段が無い為に、このマルチ・会議コンファレンス接続を防ぐセーフガード機能が含まれています。会議コンファレンスのループは全ての利用者に多大なる通話・通信コミュニケーションへの影響被害をもたらす事があります。

これらのセーフガード・システムを機能させる為に以下の制約が有ります。

- もし、その局が既に接続中の場合、あなたは会議コンファレンス・サーバーには接続出来ません。I
- もし、その局が既に接続中の場合、既に接続しているEchoLink局にはあなたは（両者共にバージョン1.1.603若しくはそれ以降を使用している場合）接続出来ません。
- もしあなたの側が既に会議コンファレンス・サーバーに接続している場合、その他の（追加になる）局はあなたに接続出来ません。
- もしあなたの側がバージョン1.1.603若しくはそれ以降を使用してEchoLink会議コンファレンスに参加している（接続している）場合、その他の（追加になる）局はあなたに接続出来ません。

他の局から私に接続しようとしたら「接続不可（"access denied"）」となったと言われました。何故そのようなか状態になったがどうやって判りますか？

もし他の局があなたに接続を試みて「接続不可（"access denied"）」となり接続出来なかった場合、ログにその特定事由が記されます。View メニューから Log を選択してログ・ファイルを開いてください。接続試行した日にちと時間へスクロール（もしくは Find からコールサインの検索）してデータを探してください。

接続局リストで、時々その局の所在地の後にカッコ内に数字が入っているのを見かけます。これは何でしょう？

この番号は現在会議コンファレンス状態でその局に接続している局の数を表しています。もしその局の会議コンファレンスQSOの制限局数に達していない場合は、数局が接続してるのかもしれないにも拘らず、ステータスは"On"表示となります。

もしあなた自身の開催する会議コンファレンスQSOにてこの情報が表示されるのを好まない場合は、Preferences メニューより Connectionsにて "Update location entry with status"のチェックをはずす事によって表示機能させないようにする事が出来ます。

もしあなたの所在地（QTH)詳細表示が22文字以上であれば後ろの表示部分がこれによって上書きされる事に注意して下さい。この機能を使うのであれば、所在地詳細表示を22文字以下にする事を考慮して下さい。

シスオペ・モードで使用しており、インターネットを通じて受ける DTMF コマンドに呼応しますが、同様にローカル端末のリンク状態のコントロールにも呼応します。例えば、会議コンファレンス参加メンバーが"#"を入力送信した場合、会議コンファレンスの全員の接続が解除されてしまいます。何故こんな事が起きてしまうのでしょう？

恐らくサウンド・カードのオーディオ出力がサウンド・カード若しくはインターフェイス・ボードの入力に「リーク」して漏れまわりこんでいるのかと思われます。

EchoLinkに内蔵のDTMFデコーダーは通常インターネット上からの信号には呼応しません。サウンド・カードの入力にての受信信号のみに呼応します。しかしながらあなたのシステムが某かの状態で構築されている場合、サウンド・カードからのオーディオ音声出力が入力側へ戻るべく拾っているかもしれません。

もしソフト制御等で同一PC内蔵で DTMF デコーダーを使っているのであれば、ウィンドウズの「録音」ボリュームを確認して下さい。"Wave Out"や"Wave Out Mix"等の項目があれば選択されていない事を確認して下さい。

如何なるタイプの DTMF ピックアップにても、サウンド・カードのアウトプット側からデコーダーのインプット側へオーディオのパス(による再入力)が無いか確認して下さい。一部のサウンド・カードではパスがオプションで可能な場合も有ります。回り込みやその他アイソレーション(ループの分離・断ち切り)の問題にて何らかインプット側とアウトプット側の夫々のオーディオが互いに絡んでいるのが問題になっているかもしれません。パソコンのスピーカーからの音声をマイク側で拾っていないかも確認して下さい。

"-L"や"-R"が付いている局の違いが良く判らないのですが？

シスオペ・モードにて運用している場合、Station Optionsのタブにて入力するコールサインは"-R"もしくは"-L"をコールサインの後ろに付けなければなりません。"-R"はEchoLinkを近隣のリピーター局へRFで(オンエアでイン・アウト周波数で)接続しているかもしくは直接のリンクをしているか、一方"-L"はシンプレックス周波数にてのリンクをしているものを表します。この違いは、リピーターとシンプレックスでは何がしか運用方法も異なってくるので、あなたのリンクにアクセスしてくる局にとって便利であり、どちらのタイプのリンクがあるのか接続前に判るので便利です。

(殆どの国では)"-R"コールサインのノードはそのリピーター周波数に合ったものでも、リピーター管理者によって運用されていると云った必要は無い事です。しかしながら、リピーター管理者にこう云ったリンクを貼る前に許可を得る事が勿論良い方法である事は言うまでも有りません。